

口腔育成系診療科

矯正歯科

TEL 022-717-8376(外来)



科長
溝口 到 教授



地域の先生方へ

矯正歯科治療に関する初診受付の時間は、平日午前8時30分から11時ですので、11時までに来院・受付を終えるように患者さんにご教示ください。また、紹介状なしで当科を受診すると、診察料のほかに特別料金がかかりますので、できるだけ紹介状を持たせてください。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

1) 歯を正常な位置に配列する治療: 歯の配列に用いる代表的な装置は、ブラケットとワイヤーからなるマルチブラケット装置です。ブラケットは、従来は金属製でしたが、最近では大人で矯正治療を希望する患者さんの要望に合うように、審美的に目立たないセラミック製あるいはプラスチック製のブラケットが用いられております。ワイヤーの調整は1か月間隔で行い、歯の移動を行う治療(動的治療)の期間は、平均的に2年から3年位かかります。

2) 顎骨の形や位置を変える治療: 成長期の子どもにおいて骨格性の問題がある場合には、整形的装置を用いて顎骨の成長をコントロールする治療を行います。使用期間は1年から2年です。

3) 顎骨手術を併用した矯正歯科治療(外科的矯正治療): 骨格性の不調和の程度が大きく、矯正歯科治療単独では良い咬み合わせを獲得できないと診断した場合には、矯正歯科治療と顎切り手術を併用する治療が行われます。治療期間は通常の矯正歯科治療と同じく2年から3年位を要しますが、途中顎切り手術のために2週間位の入院が必要になります。また、顎切り手術後1年位に顎骨の固定に利用したチタンプレートの除去手術のための入院(5日位)も必要になります。

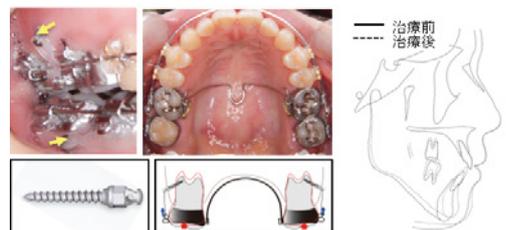


主な対象疾患

歯ならびや咬み合わせの異常(不正咬合)には、さまざまな種類があります。主な不正咬合としてはそう生、空隙歯列、上顎前突、下顎前突、開咬、過蓋咬合、交叉咬合(歯列の左右的非対称)があります。これらの不正咬合は、歯の位置の異常によるもの(歯性)と顎骨の位置や形によるもの(骨格性)に大きく分けることができます。当科の対象疾患は歯性不正咬合や軽度から中等度の骨格性不正咬合に加えて、重度の骨格性不正咬合(顎変形症)および不正咬合を伴う国の定める先天疾患が対象疾患となります。

得意分野

当科では通常の矯正歯科治療に加えて、歯科顎口腔外科あるいは医科との緊密な連携のもと、顎変形症に対する外科的矯正治療を積極的に行っております。また、顎骨に固定源を求める歯科矯正用チタン製インプラント(アンカースクリュー)も積極的に適用しております。アンカースクリューを用いることによって、従来の矯正歯科治療では困難であった歯の移動(大臼歯の遠心移動や圧下)を効率的に行うことができるようになり、永久歯抜去や外科的矯正治療を回避する可能性が高くなります。



アンカースクリューを利用した骨格性開咬の治療